

■ Human Horizons 「HiPhi」 とは？

スマートカー分野のスタートアップ華人運通(Human Horizons)のインテリジェント・ヴィークル(IV)ブランド「高合(HiPhi)」は 2022 年 1 月 18 日、山東省青島市と契約、同市に中国総本部と、販売サービス本社を設立、グローバルクラスの研究開発センターを構築、Human Horizons のこれらの動きに同市は協力していく。

中国で新興 OEM と言えば、蔚来(NIO)が突出して有名で、最近では小鹏(Xpeng)、理想(Li)なども急成長を遂げており、より詳しい人だと合衆(HOZON)の哪吒や零跑(LEAP)が最近販売台数を伸ばしている、と知られるようになってきているが、一般的に HiPhi の認知度は低い。ただし、注目すべき度合いで言えば、少なくとも NIO と同等の可能性はある。

Human Horizons はファウンダーの丁磊董事長兼 CEO が上汽集団の出身で、2017 年の設立当初は上海を拠点に動いていた。現在も上海には運営及び研究開発エンジニアリングセンターがある。また、製造は韓国 KIA の工場だった江蘇省塩城市のものを活用している。もともと Human Horizons のスマートカー実証実験も塩城市で行われていた。

その後、北京には DX センター、成都にはソフトウェアセンター、横浜には先端技術研究センターを設置。唐突に横浜が出てきたが、2019 年 7 月に整備された横浜拠点ではトヨタ自動車系の部品メーカーであるアイシン、トヨタ紡織などが協力しており、実際現在そうした各社は HiPhi に部品を供給している。日本とも関わりが深い。

ともかく、現在までに従業員数はすでに 4000 人を超えている。今回これらの拠点を統括する地として、青島市が選ばれた。青島市はやはり自動車の産業集積が盛んな都市として知られるが、目立った OEM がなく、規模はともかく、その品質には疑問が持たれていたが、今回 Human Horizons を誘致、Human Horizons をコアとして、真の自動車都市になれるかどうか、注目される。

■ 「HiPhi X」 やその評価

Human Horizons は 68 万元以上の価格帯の超ラグジュアリー「HiPhi X」を、新興としては珍しく予定通り 2021 年前半に発売開始、現在までに月販 1000 台前後に達しつつある。2021 年 9 月には従来の 6 シーターに加え、80 万元という価格の 4 シーター版も投入開始。2021 年通年の累計台数は 4237 台に達している。

月販あるいは月の納車台数 1 万台が一つの大きな目安とされる中国で、普通に考えれば HiPhi はいかにも少なく見えてしまうかもしれない。丁董事長にも「Human Horizons はいつになったら月 1 万台を超える？」という質問が多く寄せられるようだが、この価格帯で実際に月 1 万台販売すれば大変なことになる(ただし、100 万元以上のラインナップもある独ポルシェは、中国において輸入のみながら、月販数千台を維持している)。